

小説夢殿・秋涙・付録作品

なごり藤



茉莉花の

にほいににたり

藤の花

なごりつきえぬ

似たものどうし

里

令和六年六月十四日

著 飛鳥世一



# 目次

なごり藤 .....	1
------------	---



## なごり藤

昭和六年六月三日。水曜日。

今日はな友引でしてん。朝からお母ちゃんが五月蠅うてなあ次から次に用事を云いつけはるねん。躰はひとつやっちゅうねん。どの道嫁の文子に手伝わせるちゅうたかて、とどのつまりの悪者はうちになるやろし。どうせ悪者になるぐらいやったらええねん。塩梅の良(い)いところで文子にまかせて遊びに行ったらうなりますやんか。今日はどこ行ったりまひよ…

■

「文子はん…… 文子(ふみこ)はん～あのなあ、大女将がな店横の倉庫ありまっしゃろ、ほの中を片付けて欲しい云わはってますねん。あんた悪いけどチョット手伝ってくれるか。二人でやれば早いですがやろ。……あたり前やがな、あんた一人にやらせますかいな。おや、あんたなんやのその蛸谷(こめかみ)…どうしはったん？ 夕べか？ ほんなところにお灸すえたって、あんた、火傷でもしはったらどうしますねんな。紅(あこ)うなってますがな。頭痛(あたまいた)いてか、ほりゃあ気の毒なこっちゃん。片付けおわたらなゆっくり寝てなはれ。大女将にはうちから云うとくし。ほなチャッチャやりまひよか」

■

… 思うてたんやけど、文子がなんや頭が痛い云いはってなあ～なんぼうちかて…、いやいや、ほないなことができますかいな～そうおもうてな一緒にやりましたがなあ片付け。

まゝ～要領の悪い子でしてな。柳行李を持たせれば腐った行李の底は抜ける、鍬を片付けさせれば吾(わが)の足に落とす。鼠が走り回れば腰抜かす。嫁に来てから何年たってはりますねん。

「おかあはん、古道具屋で何するところですか？……ほな質屋さんみたいなもんやろね」文子が嫁に来るちゅうて決まったときに最初に聞かれたことがこれでしてな。云うてええことと悪いことちゅうのんがわかりしまへんねんなあ。グニ屋と比べよるちゅんは何事かちゅうて怒りましたがな。こんときな、うちもう一つ廂に障ったことがありますわ。質屋をさん付けにしてからに古道具屋にはさん付けせえへんかったんですわ。うちな息子に云いましてん。「ええか、古かろうが新しかろうが道具は道具や。文子はんはちゃんと教えなはれ。うちとこのお商売を云うときは道具屋さん、道具屋はんちゅうて云うように」てな。  
なんやこの日記も小言と愚痴ばかりになってきましたがあな。

今日は片付けが終わってからな。お千代姉ちゃんところ行きましたてな、一緒に春日神社はんに詣でましてんけどな。終わりかけの藤花がそれはそれは美(うつく)しゅうに咲いてましてなあ……

■

「……ん？ 歩くのはやいて？ お千代姉ちゃんが遅いだけやんか～大体お姉ちゃんは昔からなんでも遅うてな、早いのは男はんは手にエダすことだけでしたやないの(笑) あのチンマイころからやから、うちは敵(かな)わんわあおもて、いつもお姉ちゃんが飽きはるの待ってましたがな。……お千代姉ちゃんは二言目にはうちの内緒話のこと云いますねんなあ～ほおかあ……お姉ちゃんに内緒話したことありまへんでしたかあ～またあ、そんなイケず云いはってからに」

■

むかし話をしもってな。歩く道ちゅうのも良いもんでしてなあ～道端で首を垂れる菜花が初夏の風にそよぎますねん。

水無月に

ともにあるきて

祈るみち

無病息災 夏越しの祓

歩きはるのが遅いお人と歩く道もかけがえのない道に思えてきます。

…… あんなあ～いつもの見慣れた景色が違って見えますねん…。

■

「ほうやで……何を云うてますねん。春日神社はんの式年遷宮のときの正遷宮の大祭は去年の十一月十日でしたやないの。一緒に行ったやないのお姉ちゃんと。……そうですねんて、あんときなお姉ちゃんお神輿担いではった男はんのお尻ばかりみてはって(笑)なんて云うたか覚えてはります？ 知らん？ 都合が悪うなればポケたふりしますねんからかなわんわあ。あんなよう聞いてなはれや。みんないいお尻してはるなあ～ももひぎ三年しり八年～ 云いはったんよ。忘れませんか……えっ？ うちがかえ？ そんなこと云いますか……なんやのそれ……お千代姉ちゃんあんたもしっかり覚えてはるやないの……云うてるまに着きましたなあ。あゝええ藤花さんやねえ～ あそこに座って休みまひよ。お抹茶さん頼んできますわ」

■

春日神社境内の藤棚はんはなごりをみせてましてなあ。盛りはおわりちゅうことでしたんやろなあ。うちらもボチボチ盛りは終わりなんかかもしれまへんけどな、名残(なごり)には名残の楽しみ方であり美しさちゅうもんがありましてな～

茉莉花 (まつりか) の

にほいににたり

藤の花

なごりつきえぬ 似たものどうし

ほうやったわ～ 文子の頭痛 (あたまいた) は治ったんやろか。

了





---

小説 夢殿「秋涙」付録作品 『なごり藤』

---

著 飛鳥世一

制作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---